

社会資本整備審議会 道路分科会
第5回 北陸地方小委員会

議事概要

1. 日 時 平成28年3月8日(火) 10:00~11:30
2. 場 所 北陸地方整備局 長岡国道事務所 大会議室
金沢河川国道事務所 会議室 TV会議にて開催

3. 出席者

[委員長]

まるやま きゅういち
丸山 久一 長岡技術科学大学 名誉教授

[委員] 敬称略・五十音順

あきづき ゆうき 富山大学 人間発達科学部 准教授
いしぐろ あつこ (一財)北陸経済研究所地域開発調査部 主任研究員
いしぐろ 厚子
さの かずし 長岡技術科学大学 環境・建設系 准教授
さの 可寸志
す み えいじ 新潟大学 経済学部 准教授
す み 英司
なかやま しょういちろう 金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 教授
なかやま 晶一朗
まるやま ゆか (有)MAX・ZEN Performance Consultants 代表取締役
丸山 結香

4. 議 事 内 容

(1) 挨拶

- ・北陸地方整備局 道路部長

(2) 議題

- ・平成28年度新規事業候補箇所の新規事業採択時評価について

(3) 審議結果

- ・平成28年度新規事業候補箇所の新規採択時評価について事務局より説明があり、慎重審議の結果、原案は妥当との意見を頂いた。

(4) 議事要旨

- ・観光客数 3000 万人の目標に対してこの事業がどのくらい寄与するか示せないか。
- ・観光振興という観点では、道路がつながれば良いと言うだけでなく県、自治体、地元などのソフト面を含めた様々な取り組みも大切。
- ・自動車専用道路と現道がつながることになるため、現道活用部分の安全対策が必要。
- ・暫定 2 車線整備であるので中央分離帯の安全対策も必要。
- ・中央分離帯の構造は様々なものがあるのでよく検討して欲しい。
- ・B / C として 3 便益で表せない観光や企業立地などの効果を客観的指標で示すべきではないか。
- ・B / C は一つの目安となるが、B / C だけにこだわると地方の道路ネットワークが形成されず過疎化が進む。
- ・3 便益以外の便益、例えば、災害時の緊急輸送道路、病院へのアクセスなどの役割の貨幣換算を考える必要がある。また、現道活用区間が災害時にも使用可能なよう防災面も考慮して欲しい。
- ・個別事業だけでなくネットワークとして評価するのは良い。
- ・能越道の一つとしてネットワークで評価しているが、例えば、のと里山街道を含めて観光の周遊ルートの一つとして一体評価するのも良いのではないか。
- ・七尾氷見道路や北陸新幹線が開通して観光客が増加している良いタイミングであるので早く完成して欲しい。